

# 松阪牛

かわら版 2号

## 第58回松阪肉牛共進会

優秀賞一席 永田憲明さん とよみ号



喜び一杯の永田さん



11月25日、松阪農業公園ベルファームで開かれ、松阪肉牛共進会で、松阪市大宮田町の永田憲明さん(40)が育てた「とよみ」号が優秀賞一席に輝きました。

審査に続いて開かれた競りでは、「とよみ」号は津市の朝日屋さんが1200万円で落札しました。

永田さんの一席は4年ぶり2度目。水色のリボンと「優秀賞一席」の金色の札を着けた「とよみ」号を引き寄せて「うれしいです」と、喜びをかみ締めていました。

競りは多くの人が見守り、1頭あたりの平均取引額は昨年より約55万円高い約327万円でした。

県立相可高校生産経済科の生徒が育てた「きくよし」号も健闘し、「とよみ」号に次いで高値の757万円で、松阪市の瀬古食品さんが落札しました。

共進会は、肥育農家の技術向上などを目的に毎年11月に開いています。

松阪牛個体識別管理システムに登録された特産松阪牛のなかから10月の予選を勝ち抜いた50頭だけが出場することができ、県科学技術振興センター畜産研究部の職員らが、肉付きや毛並みなどを丹念に審査します。

毎年、多くの人々が訪れ、松阪市の初冬の風物詩になっています。



# 松阪牛ものがたり

## 信頼への模索②

判定はBSE（狂牛病）―。平成十三年九月二十二日午前、BSE（狂牛病）の疑いで処理された千葉の乳牛の判定結果が、県を通じて松阪市役所に正式に報告された。BSEの「疑い」が報じられてから、およそ十日後のできごとだった。この十日間、松阪市は、国の対応に振り回され続けていた。

まず、頭を痛めたのは、九月二十日に出された国の「月齢三十カ月以上の牛の食肉処理場への出荷自粛」の通達だった。松阪牛は、月齢三十カ月以上で出荷されるため、農家も出荷できない状況となった。



手厚い肥育で最高級ブランドに育てた伝統の技術が、国の画一な安全策で、存在の危機にさらされようとしていた。

松阪市は千葉の牛のBSEの疑いが報じられるや否や、発病原因とされる肉骨粉入りの配合飼料を松阪牛の飼料に使っていなかったかを、調査。結果、全農家で使用していなかったことが分かり、「安全宣言」をしようと、準備を進めていた矢先の出来事だった。

市は二十一日、当時の小泉純一郎首相らに、「産地の死活問題」と、抗議の声明文を送った。一向に国からの返事はなく、二十五日にはしびれを切らした市幹部らが、急ぎよ上京。しかし、そこで分かったことは、二十七日に国が各県の担当者を集めて開くBSEの検査方法の説明会を待つしかないということだけ。

えさの調査で「安全」と分かっているのに、「安心」と公表できない―というジレンマが、市担当者らの怒りをかきたてていた。

つづく

## 松阪牛個体識別管理システム

### 信頼の証のシールです

シールに印字された10ケタの個体識別番号で松阪牛の血統や農家の情報、移動履歴などを知ることができます。

安全で安心な松阪牛をお届けする証をお試しい。



## 食べて！知って！松阪牛

10月17日、松阪牛と輸入牛などを食べ比べてもらおうと、「食べて！知って！松阪牛」を開催しました。

口の中で溶けるようなうまみに参加した消費者の皆さんからは「さすが、松阪牛」との声が上がっていました。個体識別管理システム体験コーナーもあり、松阪牛の履歴も確認しました。



発行 松阪市役所農林水産課畜産係 三重県松阪市殿町 1340-1 ☎ 0598(53)4119

松阪牛協議会ホームページ <http://www.matsusakaushi.jp> もご覧ください